

# 「版画研修：エッチング・

## アクアチント；単色」

都立久留米特別支援学校教諭 平 松

### 1. はじめに

美高研の存在は、前任校からFAXでお知らせをいただき存じておりました。毎回、いろいろな取り組みをされていて一度参加してみたいという希望をもちながら、9年間前任校で忙しく過ごしてしまいました。

22年4月に現任校に異動し、少し美術について勉強しなくては、シーラカンスのままになってしまうという思いにかられ、重い腰を上げて夏の実技研修会に参加させていただきました。

### 2. 研修会について

日時 平成22年8月18日（水）～20日（金）

時間 9：00～16：00

場所 創形美術学校

講師 大沼 正昭

（創形美術、研究科主任日本版画協会会員）

内容 ①エッチング・アクアチントの技法を中心とした2版による多色刷り作品の制作。

②白と黒の宇宙を味わうメゾチントによる作品の制作。

### 3. 創形美術学校

池袋というアクセスのよい駅から徒歩数分のところに創形美術学校はあります。私ももっと時間がかかってたどり着いてしまいました。以前は国立にありましたね。御存知の方もいらっしゃるでしょう。

目の前は公園、ドアを開けて入ると吹き抜けの一階エントランスは、アトリエも兼ねていて、常に作品が展示されています。学生たちのエネルギーで新鮮な作品に出会うと、なにかはっとしてしまうのは、私だけで

しょうか。

コンパクトで機能的な建物の中で、作品制作に励むことになるわけです。今回お世話になる版画についても、学校の中での充実した機械設備が、地下の工房に非常にうまく配置されていて、ここでも機能美を堪能します。自分の学校の美術室の使い勝手はどうか、改めて考える非常にいい機会でした。

### 4. 制作過程

まずは、版画の種類や製法のガイダンス。アクアチント、メゾチント、うーん聞いたことはあるし教科書にも出ていた、などと生徒と変わらぬ表情の私たち、いえ私に丁寧に教えていただきました。

版画というと、施設設備や扱う材料類が専門的で、横文字のものは、なかなか授業に組み入れにくいイメージがあります。紙版画や木版画を多く取り入れてしまうことが多かったりもします。

今回、私は校務分掌の出張と重なってしまったため、3日間の版画の研修を2日間をお願いしたため、エッチングの単色版画に取り組みました。一番生徒の授業に取り入れやすく、この材料なら比較的どの学校にもあるのではないかと思います。

用意してきた原画をトレースします。カーボン紙で転写、描画、削りだし。この削りだしが、どれくらい彫ればいいのかはじめてのことであると、なかなか進みません。エッチングの直線的な線の表情を、うまく出せるためには原画のデザインが重要であるかも知れません。メゾチントの線を重ねていくことも根気が必要です。自分の作品を制作している合間に、それぞれの作品を通して、先生から特徴的なこと効果的な方法も教えていただきました。腐蝕液につけておく時間で作品の濃さが変わり、表情が変わります。そこもエッチング・アクアチントの魅力の一つでしょう。時間を意識して腐食することも版画

では、大切な要素です。おまけに、中和させるために、醤油で一度洗ってから腐蝕液につけた銅板を水洗いすることを皆さんは御存知でしたか？私は目からうろこです。

また、松脂の粉を使って、ろうそくあためて凹版を作るアクアチントは自然の力の魅力を感じました。

そして、銅版画の様々な技法（ソフトグラウンド、リトグラフ、シュガーチントなど）も工房の機械や参考作品・生徒作品を使って説明していただきました。

2日目には、試し刷りをしました。銅版画にインクを塗りこむ、ふき取る。この簡単そうに見える作業が、実は一番重要で版画の作品の出来映えに影響するということが、わかったのがこのときでした。どれくらい塗ればいいのか、どれくらい拭きとればいいのか、これは、たくさんやってみるしかわかりませんね。先生の手さばきは、神の手のようにでした。ふき取る布の素材ですが、私たちだと古着の木綿でいいのかなとつかいますが、寒冷紗やベンベルグ裏地で大まかにインク取ってから布でふき取るのだそうです。

バットで濡らした版画紙を、新聞紙で挟んで軽く押して、水切りします。エッチングプレス機の位置あわせに作品を載せ、水切りした紙を重ねます。うまくいきますようにと覆いをかぶせ、ハンドルを回します。ことごと手の触れる感触が2回あります。作品がプレスされた感触です。押された板の向こう側に行き、覆いをはがすとき、やはり期待と不安で一杯です。生徒たちも同じ顔をしますね。

版からはがしてみる作品は、やっぱりうれしいです。出来上がった作品、陰影のはっきりしたエッチング・アクアチント。よく見ると削り間違いや、気になるところはありますが、達成感もてるのではないかと思います。

この日の午後、授業で役立つ版画の技法を紹介をしていただきました。

コラグラフ（紙版画）とモノタイプ（1枚しかできない版画）です。コラグラフはプレス機を使って、凹版凸版併用です。

実際にいろいろな素材を使えること、アルミフォイルで版をコーティングすることで、使った版も作品として使える優れものです。

こうして、私の最終日、2日目は終わりました。多色刷りをした他の方の報告ができませんでしたでしたが、先日、創形美術学校で行われた実技報告展を見せていただき、とても感動しました。色が多いと作品に幅や立体感が出るような気がしました。

## 5. さいごに

準備や機材の面で、敬遠しがちな版画ですが、12月にコラグラフを授業でやってみました。興味がなかなかもてなかったり、集中できない生徒たちも、やることははっきりしている版作りや、機械操作では、よく見てやり、覆いをはがして作品を見るときのどきどき顔は見ていても楽しいです。また、1月に続きをやります。生徒たちとこのような取り組みができるきっかけを作ってくくださった創形美術の大沼先生・スタッフの方々、美工研の実技研修に感謝・感謝！です。